

成安造形大学【キャンパスが美術館】2012秋の芸術月間

セイアンアーツアテンション VOL.3

「CHI-KEI 風土のかたち、ながめ、かかわり」

記者発表開催のご案内

拝啓 爽秋の候、皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

このたび、成安造形大学【キャンパスが美術館】では、2012年10月21日(日)～11月25日(日)まで、2012秋の芸術月間 セイアンアーツアテンション VOL.3「CHI-KEI 風土のかたち、ながめ、かかわり」を開催いたします。

つきましては、この展覧会のコンセプト等、詳細なご報告をさせていただくために、下記の通り記者発表の場を設けさせていただきましたので、ご多忙とは存じますが、ぜひご出席いただきますよう、ご案内申し上げます。 敬具

記者発表 開催概要

日 時：2012年 10月19日(金) 11:00～12:00

会 場：成安造形大学 カフェテリア「結」 〒520-0248 滋賀県大津市仰木の里東 4-3-1

出席者：牛尾郁夫（本学学長／【キャンパスが美術館】館長）

金澤徹（本学教授／【キャンパスが美術館】運営委員会座長）

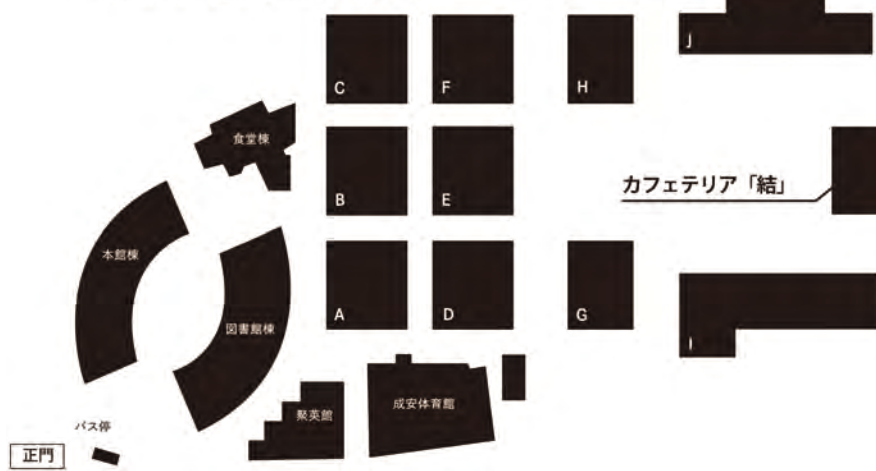
加藤賢治、吉岡康介（広報室）

>>> 展覧会の詳細は別紙のプレスリリースをご覧ください。

◆会場までのアクセス



CAMPUS MAP | キャンパスマップ



本学にお越しの際は、公共交通機関をご利用ください。
JR湖西線おごと温泉駅よりスクールバスが運行しています。

ご出席いただける場合は、下記をご記入いただき FAX にてご返信いただくか、同内容をメールにてお送りください。

FAX : 077-574-2120 E-mail : artcenter@seian.ac.jp

ご所属	お名前	ご連絡先

お問い合わせ 成安造形大学【キャンパスが美術館】事務局 担当：佐藤、松永、多胡

TEL : 077-574-2119 (直通) FAX : 077-574-2120 E-mail : artcenter@seian.ac.jp <http://www.seian.ac.jp/>

成安造形大学【キャンパスが美術館】 2012 秋の芸術月間 開催のお知らせ

拝啓 初秋の候、皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

今後、開催する展覧会についてご案内させていただきます。ぜひとも貴媒体にてご紹介いただければ幸いです。どうぞよろしくお願い致します。 敬具

セイアンアーツアテンション VOL.3

「CHI-KEI 風土のかたち、ながめ、かかわり」

成安造形大学【キャンパスが美術館】では、2012年10月21日（日）～11月25日（日）まで、2012 秋の芸術月間 セイアンアーツアテンションVOL.3「CHI-KEI 風土のかたち、ながめ、かかわり」を開催いたします。

「CHI-KEI」（ちけい）

「CHI-KEI」は、「地形」のほかに「地-景」（土地の景色、ありさま、それを眺めること）、「地-係」（土地との関係、土地と関わること）など、その音感から、作り手や鑑賞者自身がさまざまな字をあてはめてイメージを膨らませることができます。自分自身の生活環境について見直さざるを得ない機会が多い現代において、アートを通して私たちの風土が持つ豊かな表情を再発見するきっかけになればと考えています。

「セイアンアーツアテンション」

毎年の春と秋に成安造形大学【キャンパスが美術館】が芸術月間として企画運営する総合芸術祭です。期間内は【キャンパスが美術館】の12ギャラリーすべてで展覧会を開催し、国内外で活躍するアーティストたちの展覧会を行います。出品作家には本学の教員、卒業生、在校生も多く含み、本学の学びや特色を感じていただける機会にもなっています。

開催概要

展覧会名：2012 秋の芸術月間 セイアンアーツアテンションVOL.3

「CHI-KEI 風土のかたち、ながめ、かかわり」

出品作家：飯川雄大、イシヤマアズサ、奥田博士、権原保、地蔵プロジェクト、てらいまぎ、PULSE、
ブライアン・ウィリアムズ、松本結樹 ほか

会場：成安造形大学【キャンパスが美術館】 滋賀県大津市仰木の里東4-3-1

会期：10月21日（日）～11月25日（日）／28日間 12：00～18：00

※飯川雄大「FADE OUT, FADE UP」、ブライアンの目 -いま・むかし」、在学生企画公募展は会期が異なります。ご注意ください。

休館日：11月12日（月）～15日（木）（入試期間のため）

入場料：無料

主催：成安造形大学

後援：滋賀県、滋賀県教育委員会、大津市、大津市教育委員会、文化・経済フォーラム滋賀

特設サイト <http://chi-kei.tumblr.com/>

お問い合わせ

成安造形大学【キャンパスが美術館】事務局

担当：佐藤真理・松永大地・多胡真佐子

520-0248 滋賀県大津市仰木の里東 4-3-1 TEL：077-574-2119(直通) FAX：077-574-2120

E-mail：artcenter@seian.ac.jp <http://www.seian.ac.jp/>

◆各展覧会情報



《Fade out, Fade up / Port Island Sports Center》 2012 digital print

飯川雄大 いいかわ・たけひろ
 1981年兵庫県生まれ。2003年本学デザイン科ビデオクラス卒業。主な展覧会に2009年「rendezvous09」Institut d'art contemporain (リヨン、フランス)、2012年個展「Fade out, Fade up」児玉画廊 (京都、東京巡回) ほか。ハジメテン、ぼうみみ、COUMAなどアーティスト・コレクティブの活動も積極的に行う。
<http://www.takehiroikawa.com/>

[写真]

飯川雄大

「FADE OUT, FADE UP」

@ギャラリーアートサイト

10月21日 (日) ~11月11日 (日)

※主な展覧会と会期が異なります。

時計の概念を感覚的なものへと変換してしまう 24時間の映像《時の演習用時計》等、人の知覚のあいまいさや相対性を軽やかに顕在化させる試みで注目を集める飯川雄大。本展は、今夏の個展で発表したばかりの「なんとなく見えなくなって、なんとなく見えてくる」光の深いグラデーションを作り出した写真《Fade out, Fade up》シリーズを中心に、さらに発展させた内容の構成になります。

関連企画：アーティストトーク

初期作品から現在まで飯川の作品を見続けてきたという木村絵理子氏をゲストに迎え、作家本人とともに、飯川作品の核心に迫ります。

日 時：11月10日 (土) 16:00~17:30

ゲスト：木村恵理子 (横浜美術館 主任学芸員)

進 行：佐藤真理 (【キャンパスが美術館】職員)

会 場：1棟 1F プレゼンテーションルーム

無料・要予約 (定員 80名)



《八幡堀新緑》2011年 油彩

ブライアン・ウィリアムズ Brian Williams
 1950年ペルー生まれのアメリカ人。カリフォルニア大学にて美術専攻。1972年来日。大津市伊香立の里山に暮らし、日本や世界各地の写生旅行を行い、「光・空気・静寂」を表現する風景画家。2007年以降「曲面絵画」を考案し、制作・発表。

[絵画]

ブライアン・ウィリアムズ

「ブライアンの目 -いま・むかし-」

@ギャラリーアートサイト

11月16日 (金) ~12月1日 (土)

※主な展覧会と会期が異なります。

ブライアン・ウィリアムズ氏の来日から40年。「景観は環境の健康をはかるバロメーター」を信条に風景画家の立場から自然保護再生を訴えてきた氏の想いは、現在、曲面絵画という形で結実しています。曲面絵画は、現場の空間の中での画家の視線の動きを鑑賞者にも追体験させる試みです。それは、画家がイメージした「環境」に鑑賞者を包み込もうとする試みでもあります。曲面絵画が生み出す作品世界(環境)、作家の想いを形にした「かけがえのない未来の風景」に包まれた時、私たちは何を感じるのでしょうか。

企画：永江弘之 (イラストレーション領域准教授・附属近江学研究所研究員)

関連企画：公開講座 12/1 (土)



個展「時の風景」(京都芸術センター) 展示風景 2006年 photo by Tomas Svab

椎原保 しいはら・たもつ

1952年大阪府池田市生まれ。京都市立芸術大学卒業。本学、京都市立芸術大学、甲南大学の非常勤講師。1985年「メタファーとシンボル展」(東京国立近代美術館、国立国際美術館)、1988年ACCのグラントにてアメリカ渡航、2008年「時の風景」(京都芸術センター)。

[インスタレーション]

椎原保「ephemera / ここのむこう」

@ライトギャラリー

日常的な時間の中でふと気づく特別な事象に目を止め、空間を遊び、時間を紡ぐようなインスタレーションを展開してきた椎原保。「感じることは何か」その根っこの問いから芸術全体を捉え直そうと試みてきました。本展では、中庭を通して琵琶湖を見通せる開かれたギャラリーで、内と外の風景とが複雑に交錯しあう空間を生み出します。

関連企画：ワークショップ「感じることは」

「感じることは」を体験するワークショップ。

その後にディスカッションをします。

日時：11月17日(土) 14:00～

会場：ライトギャラリー前集合

無料・要予約(定員15名)

※当日は動きやすい服装でご参加ください。(スカートの着用はご遠慮ください)。ワークショップの詳細は特設サイトにて。



《舟》1993年

奥田博士 おくだ・ひろむ

1949年滋賀県生まれ。1967年滋賀県立甲南高校信楽分校窯業科卒業。1989年ロックフェラー基金の奨学金を得てアメリカ、アーチブレイファウンデーションにて滞在制作。2008年世界全米陶芸会議メインゲストアーティスト招待(ピッツバーグ、アメリカ)。他、個展、ワークショップ多数。

[陶芸/インスタレーション]

奥田博士「'音空' 今、大地から」

@ギャラリーキューブ

江戸時代から続く信楽・三楽窯の15代目で、信楽の土にこだわり、「生命」をテーマに土の可能性を追求する陶芸作家・奥田博士。器から陶のオブジェによるインスタレーションまで創作の幅は広く、国際的に活躍しています。《音空》は、80年代から続く、ロクロ成形の作品を半分に割り、内部/外部を同時に生み出してみせたインスタレーションで、長年、土や陶表現と向き合い続けた作家ならではの眼と手の力が感じられるシリーズです。

企画：辻喜代治(本学 教授・附属近江学研究所研究員)



《琵琶湖周辺所領石高明細図》江戸時代前期 松井善和 蔵

[古地図]

「地形をよむ」

@ギャラリーウインドウ

人類の歴史を紐解くと「地形をよむ」ということは、いつの時代でも、またどの地域においても、人間の営みの中で最も大切なことのひとつでした。そして正確な「地図」はそれに必要不可欠なアイテムであり、その時代の最先端の知識と技術を駆使してつくられていたことはいまでもありません。この展覧会では近世の近江にスポットを当て、近江の古地図コレクターとしても著名な松井善和氏のコレクションから古地図4点を選んで展示します。

企画：加藤賢治(附属近江学研究所研究員) 資料提供：松井善和

関連企画：ギャラリートーク

松井氏とともに、その当時、何を目的に地図がつくられたのか、どのように近江の地形がよまれていたのかを考えます。

ゲスト：松井善和 モデレーター：加藤賢治

日時：11月10日(土) 13:00～14:30

会場：I棟1Fプレゼンテーションルーム

無料・予約不要



《鳥の眼／虫の眼 -仰木・地図をめぐる視点-》 2007年

[映像／インスタレーション]

地蔵プロジェクト

「鳥の眼／虫の眼2012 -仰木映像立体地図-」

@ギャラリーフォレスト

琵琶湖と比叡山にはさまれる丘陵地に、里山環境を残す旧集落とニュータウンが隣接する仰木地域を、東西4km×南北3kmに切り取り、2500分の1の立体地図として表現しました。複雑な起伏の上に、年代ごとの航空写真や調査データを映像で投影し、多様な視点から俯瞰します。そこに息づく暮らしや文化、美意識を感じながら、「マクロ」と「ミクロ」の両極の視点で、私たちが降り立つ風景について考えてみませんか？ 展示協力：成安造形大学 情報メディアセンター

地蔵プロジェクト：2000年、仰木地域のお地蔵様の位置を調査・記録することから始まったプロジェクト。2003年、成安造形大学から独立後も、フィールドワークと地域との関わりを軸に、多様な作品制作・企画活動を続ける。



イシヤマアズサ：
2011年イラストレーション領域卒業。2012年5月『みつばの郵便屋さん』（ポプラ社）カバーと挿画、2012年7月『赤ちゃんのママが本当の気持ちをしゃべったら？』（ポプラ社）カバーと挿画担当。2012年7月、NHK出版『きょうの料理8月号』イラストカット掲載、2012年8月、NHK・Eテレきょうの料理スペシャル「夏休みのおいしい絵日記」番組放送用イラスト担当。

てらいまき：
2011年イラストレーション領域研究生修了。2009年よりPHP誌増刊号「くらしく〜る♪」（PHP研究所）にて読者ページのイラストカット継続担当、2011年3月、7月に月刊「コーラス」（集英社）短編エッセイマンガ掲載、2011年より月刊「Cocohana」（集英社）にて「京都おとめがたり」連載中。

松本結樹 まつもと・ゆうき：
2012年イラストレーション領域卒業。2011年10月「Fellows!Q」（エンターブレイン）創刊号にマンガ「雷が鳴ると」、2012年3月同誌春号にマンガ「雪はそんなにきれじゃない」、2012年8月「Fellows!」24号版促用小冊子にマンガ「塩を少々」掲載。2012年7月サンライズ出版「湖猫、波を奔る」カバー、挿絵を担当。

[イラストレーション]

「滋賀・湖西の美味しいイラスト展」vol.1

@スパイラルギャラリー

カフェテリア「結」+ミュージアムショップ

古くからつたわるもの、新しいもの、湖西にはじつはおいしいものがたくさん！ 新進イラストレーター3人が、町を歩き、人と出会い、湖西の「おいしい！」をイラストマップ&イラストエッセイに。原画の展示のほか、イラストエッセイマップブックや、ポストカードの販売もいたします。（vol.1は、大津京から比良まで）

関連企画：
ワークショップ「仰木の納豆餅を作って食べよう！」
本学のある仰木地区の伝統料理・納豆餅を、地域の方たちと一緒に食べて食べましょう。「CHI-KEI」のオープニングパーティーとの同時開催、地元の料理も振る舞われます。
日時：10月21日（日） 16:00～（材料がなくなり次第終了）
会場：カフェテリア「結」
持参物：なし 無料・予約不要



PULSE パルス
加藤駿介と山本佳世子（2007年 本学デザイン科グラフィックデザインクラス卒業）によるデザインユニット。2007年から活動を開始。グラフィックデザインを中心に印刷物 / 映像 / プロダクトを制作。現在は滋賀県の信楽にて陶器を制作中。

[陶芸／インスタレーション]

PULSE [FORM]

@ギャラリー聚英

グラフィックデザインを中心に活動するPULSEは、近年陶器の制作に取り組んでいます。彼らが制作のベースとする信楽の地で、一番モノを作る行為の“意思”を感じとったという、彼ら曰く「陶器の墓場」。そこは、土から生まれた陶器が何かしらの理由で廃棄され、また土に戻って行く場所です。彼らはその場所に、歴史の点を認識させられるといいます。本展では、「陶器の墓場」に廃棄された陶片を使用した作品を展示いたします。

関連企画：
期間中に関連イベントを開催予定。
詳しくは特設サイトにて。
<http://chi-kei.tumblr.com/>



[ファッション]

○第5回BIWAKOビエンナーレ2012

「五個荘 麻織物ファッションショー」展示

@クロッシングギャラリー

「近江の麻」を使用した「自分好み」の服作りは、滋賀県地場産業・湖東麻工業協同組合とのコラボレーションプロジェクト。空間デザイン領域ファッションデザインコース・テキスタイルアートコースおよび総合領域デザインプロデュースコース3年生の前期授業として行われています。第5回BIWAKOビエンナーレ2012のファッションショーにて発表した本学学生達の作品を展示いたします。

監修：田中秀彦（空間デザイン領域助教）
河原林美知子（同領域非常勤講師）

[現代アート／イラストレーション]

在学生企画公募展

@バスストップギャラリー

「CHI-KEI」のテーマに沿った、本学学生による企画展を開催します。

常設展

学園歴史資料室およびガーデンギャラリー

CHI-KEI オープニングパーティー！

川魚や佃煮など、旬の食材を使った地元の料理が振る舞われます！

本学のある仰木地区の伝統料理・納豆餅を、地域の方たちと一緒に食べてみましょう。

日時：10月21日（日）16:00～

会場：カフェテリア「結」

参加費：無料（ドリンクは別料金）

参考資料

セイアンアーツアテンション これまでの企画

2011 春

VOL.0

「Mixing Voices-響きあうイメージーション-」

会期：2011年5月20日～6月25日

出品作家：牛島光太郎、VitalSigns、君平、田中一樹、田中保治、津田睦美、濱田薫、山形歩、wah document ほか

2011 秋

VOL.1

「SITE SITE SPECIFIC 近江の水・山・祈り」

近江の水・山・祈り

2011年10月23日～11月27日

出品作家：今森洋輔、近江学研究所+地蔵プロジェクト、大津祭ちま吉プロジェクト、岡田修二×高梨純次、岡本亜弓、河村篤、木村至宏×石川亮、津田直、山さきあさ彦 ほか

2012 春

VOL.2

「MAKING 連なる行為がつくること」

会期：2012年5月20日～6月17日

出品作家：小田隆×徳川広和、亀井麻里、中島涼介、南風食堂、野井成正、馬場晋作、阪東勲、堀尾貞治、松村綾子 ほか